

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害時組織対応セミナーを実施しました（2022/7/2）

テーマ：災害対策マニュアル、事業継続計画（BCP）、DMAS、新型コロナ対策

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

URL：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム <https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp>

2022年7月2日（土）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害時組織対応セミナーを実施し、プログラム履修生他15名（医療従事者、行政・消防職員など）が研修を受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として、運営と事業継続計画（BCP）に関する講義・演習を行いました。

災害時に病院や自治体、消防は遅滞なく初動対応に取り組む必要があります。各組織で災害時の初動マニュアルを整備しています。各組織の初動マニュアルはアップデートが繰り返されよく練られたものですが、視点の偏りや他組織との連携に乏しいものもあります。本セミナーでは、参加者が所属する組織のマニュアルを持ち寄り、職種を超えた視点でお互いの初動マニュアルの課題を抽出しました。また、マニュアルをベースにした訓練の企画立案に関する机上演習を行いました。佐々木准教授は、BCPの考え方・策定手順・維持管理に関する講義を行い、ハザードマップを用いたリスク評価の演習を行いました。

今回の研修には、日本災害医学会学生部会（DMAS）東北支部に所属し災害医療を学ぶ保健医療系学生5名も参加し、運営補助にあたりました。現在、東北DMASには医学科、看護学科、救命救急学科などの約150名の学生が所属し、実災害時にボランティアとして災害医療活動支援を実践するなど、未来の災害対応に期待できる戦力となっています。



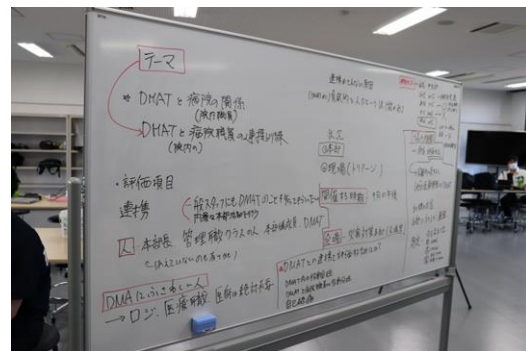
自社の災害対策マニュアルの脆弱点を検証



お互いのマニュアルの脆弱点をグループ討議し、模擬訓練テーマを決定



模擬訓練テーマを発表する受講生



被災した際の支援受け入れを訓練する
 模擬訓練概要